

## 4 緩和ケア病棟「郷和」の今とこれから

桜井 金三

南部郷厚生病院緩和ケア施設「郷和」

## Now and the Future of Palliative Care unit "Satowa"

Kinzou SAKURAI

*Palliative care unit "satowa"**In Nanbugou kousei hospital*

## 要 旨

郷和は五泉・新津・阿賀地区のがん終末医療の一翼を担っている。今後がん緩和医療のコアとして、がん診療病院・在宅診療医・老人保健施設などとの連携を密にしていきたい。

キーワード：緩和ケア病棟，癌終末期ケア，在宅緩和ケア

緩和ケア病棟「郷和」は新潟県 3 番目の施設として、平成 13 年に開設した（ベッド数 20 床）。現在県内には 4 病棟 94 ベッドが稼働している。ホスピス緩和ケア協会では、癌死 50 人に緩和ケア 1 ベッドを目安としており、県内には 150 ベッドが一応の目安となる（上越地区に 1 施設必要であろう）。郷和のスタッフは医師 3 名（1 名は専任）、看護師 16 名（ホスピスケア認定看護師 1 名）、看護助手 2 名、MSW 1 名（臨牀心理士）。ほかに 10 名余のボランティアの方が活動しているが、決して充分ではなく、でき得ればもっとたくさんの方の参加をお願いしたいと思っている。看護師については 16 名では充分ではないが募集しても応募が少なく増員が困難なのが現状である。特に若い世代の応募が殆どない。研修を積んで中心的なスタッフとして育ってくれる若い世代の看護師を熱望している。薬剤師・管理栄養士・PT などは厚生病院と兼務している。平成 18 年度のベッド稼働状況は、入院患者数 119 名・平均在院日数 47.3

日で、平均ベッド利用率は 78.8%であった。県内の 3 施設の状況は近似しているが、全国の平均に比し、在院日数がやや長い傾向であった（表 1）。18・1・1 から 12.31 間の死亡退院 87 名で見ると（表 2）紹介元病院では、南部郷総合など関連病院が約 4 割であった。県立がんセンター、新潟市民病院、新潟大学付属のがん治療病院からも 4 割の紹介があった。患者住所では五泉市と旧新津市、阿賀野市で 2/3 を占めていた。地域の癌終末期医療の一翼を担っていることが示された。今後とも癌治療病院との連携を密にし比較的早期から臨死期に至るまでの緩和ケア・癌終末期ケアを担っていきたい。開設以来、在宅医療にも積極的な姿勢で臨んできたが、家庭の介護力があまりにも貧弱であるためか、在宅で最後を迎えた方は極めて少ない。家族の苦労を慮ってか、患者さんも在宅療養の希望を強く言えないのが実情である。今後の課題と考えている。また、認知症を抱えた方が末期がんになるケースも増えてきている。徘徊がひ

Reprint requests to: Kinzo SAKURAI  
Palliative care unit "satowa"  
Nanbugou kousei Hospital  
2925 - 2 Atago - kou,  
Gosen 959 - 1765 Japan

別刷請求先：〒 959 - 1765 五泉市愛宕甲 2925 - 2  
南部郷厚生病院緩和ケア「郷和」 桜井 金三

表1 郷和の入院統計

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
入院患者数(人)	73	81	134	112	119
平均病床利用率(%)	57.7	51.9	75.3	79.1	78.8
平均在院日数(日)	62.8	51	44.7	54.6	47.3

表2 18年死亡患者87名の紹介元病院

県立がんセンター	17名
新潟市民病院	12名
新潟大学	5名
下越病院	3名
加茂病院	2名
木戸病院	2名
亀田第一病院	2名
開業医師	3名
県外	3名
関連病院	33名
(南部郷総合病院)	23名)
(北日本脳外科病院)	6名)
(南部郷厚生病院)	4名)

どい場合などは、緩和ケア病棟では対応に苦慮することになる（一般病棟では尚更であろうと思う）。老健施設や特別養護老人ホーム、グループホームなどの認知症に慣れた施設でケアしていただ

けるような教育・診療連携の体制を作っていくことが求められている。緩和ケア病棟は、コアとなって緩和ケア全体を束ねることができると考えている。